

財団活動を称えて

社団法人日本塑性加工学会
第27期会長 鈴木秀雄



財団技術成果報告の創刊ならびに講演発表会 FORM TECH' 91の開催おめでとうございます。天田金属加工機械技術振興財団が設立されて早4年、その間着実に成長され所期の成果を挙げておられることに敬意を表し、心からお祝い申し上げます。

私どもの社団法人・日本塑性加工学会は、すでに30余年の歴史を有し、わが国科学工業の発展に最も貢献してきた学会の一つであると自負しております。会員は約4,100名で、その所属は産官学にほどよく分かれ、国内外に分布しております。学会の目的は定款に、塑性加工に関する学術の進歩向上に寄与することとあります。

一方財団は、主に研究助成および普及を通じて、塑性加工技術の進歩向上に寄与することを目的としておられます。学会の「学術への寄与」に対して、財団の「技術への寄与」という文字上の違いはありますが、わが国の工学ないし技術の科学を進歩せしめ、工業を発展されようとする意図については、全く同じであるといえます。したがって学会も財団の設立当初から、その活動に大いに期待し注目していたところであります。

わが国は資源に恵まれないこともあり、常に世界に先がけて革新的生産技術を追及しなければならない宿命を持つ、科学技術・工業立国であります。製造業に不可欠の生産技術とくに中核となる塑性加工技術の研究に的を絞った助成は、誠に理にかなったものであるといえましょう。

これまで学会あるいは関係者が受けた研究助成は、約3億8千万円に昇ると聞いております。たとえ非会員が受けたものであっても、また国際交流助成も含めて、つきつめれば塑性加工技術ならびに関連の発展に貢献し基盤を強固にするものであり、すでに成果も現れつつあると聞くとき、大変有難いことと思います。またこの機会に一同に代わって、心から謝意を表したく存じます。